

宴会場→半個室、岩盤浴 布団敷き→ベッド

# 国内宿泊客 獲得へ改装

新型コロナウイルス感染症拡大によるインバウンドや団体客の激減を受け、県内の宿泊施設で国内需要や個人客の取り込みに向けた動きが広がっている。宴会場となっていた広間は稼働率が低下しており、半個室や岩盤浴施設に改装。スタッフと宿泊客の接触を減らすため、客室はチェックイン後の布団敷きが必要ないベッドに変更するなど、「新様式」への対応も進んでいる。

世界的な感染拡大による渡 受けた。石和温泉の「別邸 花水晶」(笛吹市石和町川中島)は元々は利用者の8割以上がインバウンドだったが、予約が急減。6月から約3カ月間休館した。「収束後も完



「別邸 花水晶」の広間を改装した半個室の食事会場



「別邸 花水晶」が客室に新たに設置したベッド  
＝いずれも笛吹市石和町川中島

全な回復は見込めない」と判断し、国内需要の獲得に向け施設の改装に踏み切った。

宴会場として多いときには約90人が利用していた広間は、壁やロールカーテンで仕切った半個室の食事会場に改装。「安心して利用できる宿(担当者)を目指し、客室へのスタッフの入室を極力減らすため、敷布団からベッドに変えた。対面式で椅子を置いていたラウンジはカウンターに切り替えた。

宿泊料金はこれまで1人当たり6千〜7千円としていたが、リニューアルした8月から1万5千〜6千円に変更。週末を中心に満室となっている。担当者は「順調な稼働で、リピーターも増えている。インバウンドに依存せず、積極的に新しい価値を提案していきたい」と話す。

一方、「石和名湯館 糸柳」(笛吹市石和町駅前)は、感染拡大による団体客の減少を

受け、ターゲットを個人客にシフト。6月に一部の部屋にベッドを導入し、宴会に使っていた大広間は、フロアリングにテーブルと椅子を置いた食事会場とした。

8月には2番目に大きな広間を兼石浴施設「自家源泉薬石浴 嵐の湯」に改装。利用者からの評判は上々という。糸柳の内藤修平専務は「感染収束後も団体客の割合が少なくなる流れは変わらないと見ている。個人客向けのサービスをさらに充実させていきたい」と話している。